

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の研究対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (承認番号)	抗血栓薬内服者における大腸憩室出血に関する検討
当院の研究責任者 (所属)	消化器内科 藤島 裕耕
他の研究機関および 各施設の研究責任者	岩手医科大学 内科学講座 消化器内科消化管分野 松本 主之(代表研究責任者) 岩手医科大学 内科学講座 消化器内科消化管分野 鳥谷 洋右(共同研究責任者・事務局)
本研究の目的・概要	最近、高齢化に伴い抗血栓薬の内服者数が増加し、消化管出血や内視鏡治療における抗血栓薬の内服マネジメントが注目されており、各学会においても議論のテーマになることが多くなっている。そこで、岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野において2015年1月から2019年8月の間に大腸憩室出血の診断で岩手医科大学附属病院に入院した全76例のうち活動性の出血を止血し得た16例を除いた60例で検討してみたところ、抗血栓薬内服群22例と非内服群38例の比較において、前者で有意に入院期間が長く、入院中の最低Hb値が低く、1年以内の再出血率が高いことがわかった。しかしながら、抗血栓薬内服群22例のみでは抗血栓薬の内服数や入院中の休薬の有無について比較検討するには症例数が足りないため、関連施設も含めて症例を集積したうえで再検討を行う。
調査データ 該当期間	調査データ: (1) 患者背景・臨床像 性別、年齢、既往歴、抗血栓薬内服の有無・種類 (2) 入院中の臨床経過 入院期間、入院時血圧、入院中血液データ(Hb など)、輸血投与量、大腸内視鏡所見、入院中の抗血栓薬継続・中止の有無等 調査期間: 2015年1月1日～2019年8月31日
研究の方法 (使用する資料等)	●対象となる患者さま 2015年1月1日から2019年8月31日までの期間において大腸憩室出血の診断で入院となった症例の全例 ●利用する情報 臨床情報を電子カルテより取得
	データ入力フォーマットは各々の施設で電子データでまとめ研究事務局に送付

<p>資料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法</p>	<p>する。電子データを管理する PC は岩手医科大学内科学講座消化器内科消化管分野研究室内の保管庫にて鍵をかけて保管し、記録媒体の持ち出しを行わず、データ管理PC へのアクセス制御、外部からの不正アクセス等の防止に対して不正ソフトウェア対策を講じる。</p> <p>本研究結果が公表される場合にも、研究対象者個人を特定できる情報を含まないこととする。また、本研究の目的以外に、本研究で得られた情報を利用しない。</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>本試験に関係するすべての研究者は「ヘルシンキ宣言」(日本医師会誌、WMA フォルタレザ総会(ブラジル)改訂)1)および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(厚生労働省)2)に従って本試験を実施する。</p> <p>1) http://www.med.or.jp/wma/helsinki08_j.html 2) http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf</p> <p>調査により得られた情報を取扱う際は、研究対象者の秘密保護に十分配慮し、特定の個人を識別することができないよう、研究対象者に符号もしくは番号を付与する(連結可能匿名化)。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話:0185-52-3111(代表) 消化器内科 藤島 裕耕</p>
<p>備考</p>	